

**演題名：外科専門医の修練は大学病院？市中病院？—修練の主たる基幹施設の違いに伴う、外科専門医教育プログラムの実態—**

**[演者]**小池 大助:1, 渡部 純:2

**[共同演者]**荒井 啓輔:3, 喜安 佳之:4, 高村 卓志:5, 須田 千秋:6, 高木 弘誠:7, 高森 信吉:8, 高山 渉:9, 中村 真衣:10, 福本 将之:11, 渡邊 元己:12, 齊藤 光江:13

1. 藤田医科大学ばんだね病院消化器外科
2. 自治医科大学消化器一般移植外科
3. 神戸大学肝胆膵外科学
4. 京都大学消化管外科
5. 藤沢湘南台病院外科
6. 佐久医療センター救命救急センター
7. 岡山大学消化器外科学
8. 大分大学医学部附属病院呼吸器外科
9. 東京医科歯科大学救命救急センター
10. 国立国際医療研究センター病院肝胆膵外科
11. 長崎大学大学院移植・消化器外科
12. 大阪市立総合医療センター肝胆膵外科
13. 順天堂大学乳腺腫瘍学講座

**【背景】**日本の外科専門医教育は、認定プログラムにより構成されるが、その母体となる基幹施設の属性は様々である。修練医への指導方針・方法・執刀経験数・学術活動への参画などは大まかな要件があるのみで、その実態はプログラムにより異なっていると考えられる。

**【目的】**修練の主たる基幹病院の違いが、教育プログラムの実態や修練医の満足度にどのように関連するかを明らかにする。

**【方法】**日本外科学会教育委員会 U40 ワーキンググループは、令和 3、4 年度の外科専門医試験合格者全員を対象に、修練の現状を把握するためのアンケートを実施した。これを大学修練が最も長い群(大学群)、大学が 7 ヶ月以上だが市中病院での修練が長い群(大学+市中群)、市中病院が最も長く、大学が 6 ヶ月以下の群(市中群)と 3 群に分け、修練実態や、修練医の満足度について検討した。

**【結果修正中】**有効回答数 758 名(53.6%)であった。大学群 199 名(26.3%)、大学+市中群 299 名(39.4%)、市中群 260 名(34.3%)に分類された。背景因子は卒後年数、年齢、性別等に差はなかった。大学+市中群では、大都市で修練を行った割合が 35.8%と少なかった( $p=0.007$ )。消化器外科希望者は大学群が 42.2%で少なかった( $p=0.023$ )。プログラム選択理由で最も多かったのは大学群、大学+市中群で出身大学であることであったが、市中群

では手術件数の多さであった。全身麻酔手術の執刀数は大学群で最も少なく、次いで大学+市中群、市中群と多くなっており、大学群では 200 例以下が 43.7%を占めた。指導医の臨床・教育能力への満足度、論文執筆数、Off-the job training の受講率に群間差は認めなかった。勤務管理や超過勤務時間の実態は同様であったが、当直回数は多い順に大学群、大学+市中群、市中群であった。超過勤務手当の支払いがあった業務は大学群で最も少なく、大学群は手術や診療に対しても 29%で手当の支払いがなかった。年収は大学群が最も少なく、次いで大学+市中群、市中群の順であった。研修全体の満足度は、市中群が最も満足度が高く、大学群( $p=0.041$ )や大学+市中群( $p=0.008$ )と有意差が認められた。

**【結語】** 大学病院中心での外科専門医修練は、少ない執刀数や低収入等の問題を抱えている一方で、指導能力・Off-the job training・論文執筆数などの教育実態はその他での修練と同等であった。外科修練の改善のために、大学病院が率先して修練システムを改善し、それを学会が支援することが望まれる。